

住所の変更届け等に関するお願い

1. 住所の変更届けは早めをお願いします。

春は移動の季節です。毎年4月初めは転勤・転居と「天気」の発送が交錯して差し戻し等が数多く出ており、旧勤務地（旧住所）の方には転送等の迷惑を掛けることにもなっています。それらを防ぐために、事務局でも各支部等を通じて移動状況を早めに把握するように努めています。各会員においても転勤等による住所の変更届けを早く事務局まで連絡して頂くようお願いいたします。

特に、3月末から4月初めの移動の方には新勤務地（新住所）に「天気」をお届け出来るよう、できるだけ早く（3月20日頃迄）下記の事務局まで、「会員番号」、「氏名」、「旧勤務地（旧住所）」、「新勤務地（新住所）」をメール等で連絡頂くようお願いし

ます。

2. 2003年通常会員会費の納入を早めをお願いします。
2003年の会費の納入は1月末までとなっています。納入が遅れますと機関誌の発送が停止となることもありますのでできるだけ早い納入をお願いします。

3. その他

バックナンバーの購申し入れ等にもメールをお気軽にご利用下さい。

日本気象学会事務局

tel : 03-3212-8341 (ext2546)

fax : 03-3216-4401

e-mail : metsoc-j@aurora.ocn.ne.jp

編集後記：この冬の前半は北半球で寒気放出型の循環場が持続し、東京でも近年になく寒い日々と感じられました。しかし「冬来たりなば春遠からじ」、もうすぐ花の季節です。つくばから大手町に移ってはや4年目の終わりが近づき、天気編集委員の任期も同じく4年になろうとしています。

この間本業では気候系監視業務を担当し、その足元を固めるために長期再解析プロジェクトにたずさわることになりました。おかげで現象を見ている時間はすっかりなくなってしまいましたが、これまであまり縁がなかった各種の観測データの取り扱いについて、また観測データをめぐる諸状況について知ることが出来たことは幸いでした。

残念なことに、最近25年程度の全球の再解析を行おうとすると、日本国内には必要な観測データの僅かな部分しか利用可能な形で蓄積されていません。また気候の分野で使えるほど長期間に渡ってほぼ同じセンサーで計られた衛星観測データは、日本ではGMSシリーズによるものしかありません。従ってすでに再解析を実施した欧米に頭を下げて、彼らが時間と労力をかけて整備した貴重な観測データセットを分けても

らっているのが実情です。研究や開発の基盤となる資料の包括的な蓄積・維持が、このようにないがしろにされているのは誠に遺憾な状況と言わざるを得ません。もっとも長期再解析を初めて立ち上げた当初は、欧米の気象局でも似たような状況だったようで、結局膨大な観測データを収集し維持管理してきた米国大気科学研究センター（NCAR）の出番となったとのこと。データはできるだけ障害なく多くの人に使われてこそ意味があるので、誰かが握りしめて死蔵しては存在しないのも同じです。NCARは日本でいえば文部科学省と気象庁が協力して運営しているようなことになるのですが、そのデータサポートセクションのリストをウェブサイトで見ると、データ収集・整備の充実徹底ぶりには圧倒されます。国際的な再解析のコミュニティでは、統一された長期再解析用のデータアーカイブを、再解析を試みる誰もが利用できる形で整備していこうという議論もなされています。気象庁にも多くの貴重なデータがマイクロフィルムなどの形で残されており、これらを電子化する努力が続けられていますので、何がしかの貢献ができればよいと考えているところです。